

宗谷シーニックバイウェイ

SOYAScenic Byway

活動名：道北ルート連携フォトコンテストのパネル展の開催（継続）

- 【概要】道北ルート連携フォトコンテストや道北の美しい風景をPRするために、フォトコンテストの入選作品のパネル展を開催した。
- 【主催】道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会
- 【開催場所】道の駅「北オホーツクはまとんべつ」、稚内地方合同庁舎、稚内市図書館、豊富町「ふらっと★きた」、稚内市「キタカラアトリウム」、

パネル展開催日程

開催箇所	日程
道の駅「北オホーツクはまとんべつ」	6/13～6/24
豊富町「ふらっと★きた」	8/1～8/8
稚内地方合同庁舎	8/9～8/19
稚内市「キタカラアトリウム」	8/22～9/1
稚内市図書館	2/1～2/17

豊富町「ふらっと★きた」



道の駅「北オホーツクはまとんべつ」



稚内市図書館



宗谷シーニックバイウェイ

SOYAScenic Byway

活動名：利尻島での自転車・バスの周遊観光実験（継続）

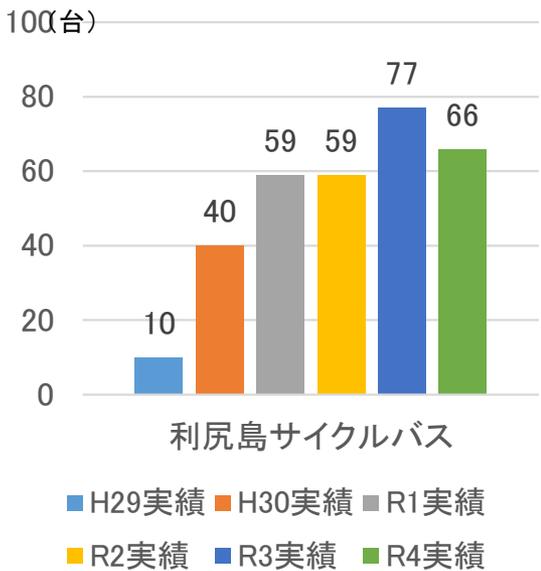
【概要】 絶景と約25kmにも渡るサイクリングロードを有する利尻島を、サイクリング適地と位置づけ、ライト層であっても気軽に利尻島約60kmを1周できる仕組みづくりを行う。平成29年度の実証実験を経て、平成30年度から本格的にサービスが開始した。

【実施期間】 令和3年4月21日～10月31日（194日間）

【自転車積載回数】：77台回

※H29実績 12台回（平成29年8月1日～10月31日）、H30実績 40台回（平成30年4月21日～10月31日）、R1実績 59台回（令和元年4月21日～10月31日）、R2実績 59台回（令和2年4月21日～10月31日）、R3実績 77台回（令和3年4月21日～10月31日）、R4実績 66台回（令和4年4月21日～10月31日）

サイクルバス利用者の変遷



自転車を積載している様子



車内で掲示されている利用案内



自転車を固定している様子

宗谷シーニックバイウェイ

SOYAScenic Byway

活動名：秀逸な道（宗谷ヒストリーロード）清掃活動（継続）

【概要】 国道238号「秀逸な道」声問区間（稚内空港周辺の3キロ区間）における沿線の美化活動。令和元年度から実施し、令和4年度で4回目となった。秀逸な道の清掃活動には、山本建設(株)、稚内印刷(株)、稚内ロータークラブ、稚内信金、稚内市、稚内開発建設部の68名が参加した。今年度から豊岩駐車帯の清掃も実施した。

【日時】 令和4年7月22日

【場所】 稚内市声問

声問区間の集合写真



声問区間の清掃活動



豊岩駐車帯の清掃活動



声問区間の清掃活動



声問区間の清掃活動



豊岩駐車帯の集合写真



宗谷シーニックバイウェイ

SOYAScenic Byway

活動名：宗谷丘陵・白い道サスティナブルな観光コンテンツ事業

【概要】 稚内観光協会と連携し、「白い道」の資源保護や満足度の向上など来訪者に持続可能な観光地への取組を体験していただく実証実験。具体的には、キッチンカーによる軽食提供、リラックスコーナーの設置、電動MTB及び電動キックスクーターの貸し出し、ガイドツアーの開催、敷設員殻の販売を行った。

【日時】 令和4年9月17日（土）、18日（日） ※18日は雨天のため中止

【場所】 稚内市宗谷岬・白い道

宗谷丘陵・白い道
サスティナブルな観光コンテンツ事業

9/17(土)・18(日)
開催時間 午前9時～午後3時

また北海道MOO6月アンケート集計（回答数）で採用された観光地のベスト5は宗谷岬（23%）、ノシャップ湖（17%）、北前遊船チーム（14%）に続いて、宗谷丘陵（13%）、白い道が（10%）となっております。
宗谷シーニックバイウェイでは、（一社）稚内観光協会と連携して、人気上昇中の「白い道」の資源保護や満足度の向上と来訪者に持続可能な観光地への取組を体験していただく実証実験です。

■ お気軽にお立ち寄りください ■

<p>1. キッチンカー登場 無料</p> <p>幼児～小学生までが得意。お昼も安心なドリンク（無料）で販売します。</p>	<p>2. リラックスコーナー 無料</p> <p>敷設員殻やテーブルなどの椅子を設置して様々な景色をゆっくり眺めていただけます。</p>	<p>3. ガイド付アットパス 無料</p> <p>アットの付いた白い道の案内をしながらの観光です。無料（11時～13時30分迄30分間）</p> <p>ボランティア・ネイチャーガイド&インフォメーション係 関根 純賢氏</p>
<p>4. 電動モビリティ試乗会 無料</p> <p>無料で電動モビリティを無料でお試乗いただけます。電動MTBと電動キックスクーター。（各15分程度お試乗）（1日30分）</p>	<p>5. 敷設員殻の販売 有料</p> <p>白い道利用時に弊製を入れたお土産も販売しております。1カップ100円</p> <p>■ アンケートへのご協力 ■ 上記取組への参加いただいた方にアンケートをお送りいたします。結果がのりまわっています。</p>	<p>開催場所：宗谷丘陵白い道 約10kmの道のり</p>

主催：宗谷シーニックバイウェイルート運営代表委員会（担当：杉川 昌弘 090-15814-7785）
協賛：（一社）稚内観光協会、（株）宗谷観光、（一社）北海道観光振興センター



令和4年度

宗谷シーニックバイウェイ 活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 宗谷シーニックバイウェイ	報告者: 稚内開発建設部	報告年月: 2023/3/31
---------------------	--------------	-----------------

ルート(エリア)運営活動計画方針	令和4年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
景観・環境	宗谷らしい自然景観や環境の保全と活用	秀逸な道(宗谷ヒストリーロード)清掃活動	R4.7.22	宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議	国道238号「秀逸な道」声問区間における沿線の美化活動。多くの方が参加するとともに、秀逸な道のPRにもなった。今年度から豊岩駐車帯の清掃も実施した。	秀逸な道の2区間について、地域と連携・協働し、宗谷らしい景観を守り・育てる取組を推進していく。	SY-4
		宗谷丘陵・白い道サステナブルな観光コンテンツ事業	R4.9.17	宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議	稚内観光協会と連携し、「白い道」の資源保護や満足度の向上など来訪者に持続可能な観光地への取組を体験していただく実証実験。具体的には、キッチンカーによる軽食提供、リラクسسコーナーの設置、電動MTB及び電動キックスクーターの貸し出し、ガイドツアーの開催、敷設貝殻の販売を行った。		SY-5
情報・観光	特異な地理条件(利尻・礼文)を克服する情報発信	道北ルート連携フォトコンテストの開催	R4.6.1~9.30	道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	大雪・富良野ルート、萌える天北オロロンルート、天塩川シーニックバイウェイと連携したフォトコンテスト。今年度もコロナ禍のため過去に撮影した写真も応募可とした。また学生部門も設けた。応募作品は214作品であった。	ルート内の美しい風景写真を通して、宗谷シーニックバイウェイの情報発信を強化する。	SY-1
		道北ルート連携フォトコンテストのパネル展の開催	道の駅「北オホーツクはまどんべつ」R4.6.13~6.24 豊富町「ふらっと★きた」R4.8.1~8.8 稚内地方合同庁舎R4.8.9~8.19 稚内市「キタカラアトリウム」R4.8.22~9.1 稚内市立図書館R5.2.1~2.17	道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	道北ルート連携フォトコンテストのPRや道北の美しい風景をPRするために、過年度のフォトコンテスト入選作品のパネル展を開催した。住民や旅行者が集まる場所で、パネル展を開催することで、多くの方にPRすることができた。		SY-2
	フットパスやサイクリングなど新たなツーリズム創出	きた北海道エコ・モビリティ事業「利尻島での自転車・バスの周遊観光実験」	R4.4.21~10.31	宗谷バス(株)	自転車をそのまま積載できる「サイクルバス」を利尻島の路線バスとして運行した。本格運行が今年度で4年目となり、島内にサイクルバスが定着しつつある。コロナ禍であったが、66名台の利用があった。	サイクルツーリズムを中心に、宗谷管内の新たなツーリズム創出を目指す。	SY-3
宗谷アクティブバスによるツアー等の実施	夏期	宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議	令和3年度から導入した宗谷アクティブバスを活用し、稚内駅~宗谷岬までの路線バス運行及び貸切バス運行を行った。ツアーは7本、全70名。路線バスは6~9月で1,164名、自転車49台の利用があった。				
	稚内観光協会、宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議、稚内観光協会	全体会議 R4.7.14 コアメンバー会議 R4.11.17	稚内観光協会、宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議、稚内観光協会	きた北海道ルートにおける宗谷地区のサイクルツーリズムを推進するために、全体会議及びコアメンバー会議を開催した。きた北海道ルート全体でサイクルツーリズム現状を関係者と共有することができた。			